

主要経済指標等 (2012年)

- 人口 ..... 129万人
- GNI 総額 ..... 114.79億ドル
- GNI 一人あたり ..... 8,770ドル
- 経済成長率 ..... 3.2%
- 失業率 ..... 7.9%
- 対外債務残高 ..... 44.59億ドル
- 援助受取総額 (支出純額) ..... 1.78億ドル
- DAC分類 ..... 高中所得国
- 世界銀行分類 ..... iv / 高中所得国

出典) WDI (世界銀行) 等。詳細は解説参照

表-1 我が国の対モーリシャス援助形態別実績 (年度別)

(単位: 億円)

年 度	円借款	無償資金協力	技術協力
2009年度	-	0.16	0.58(0.52)
2010年度	70.12	0.09	0.87(0.83)
2011年度	-	0.05	1.39(1.39)
2012年度	-	0.09	4.51(4.46)
2013年度	-	0.71	3.29
累 計	161.46	58.44	57.78(56.48)

※脚注参照

ミレニアム開発目標 (MDGs) 代表的な指標

	過去データ	最新データ
●目標1: 1日1.25ドル未満で生活する人々の割合	-	-
●目標2: 初等教育における純就学率	99.5%(1990)	90.9%(1998)
●目標3: 初等教育における男子生徒に対する女子生徒の比率 (男子を1とした時の女子の人数)	1.01人(1990)	1.00人(1998)
●目標4: 5歳未満児の死亡数 (1,000人あたり)	23.0人(1990)	15.1人(2012)
●目標5: 妊産婦の死亡数 (出生児10万人あたり)	68人(1990)	60人(2010)
●目標6: 15~49歳のHIV感染率 (100人あたりの年間新規感染者数の推定値)	-	0.06人(2011)
●目標7: 改良飲料水源を継続して利用できる人口の割合	99.2%(1990)	99.8%(2011)

出典) Millennium Development Indicators (The Official United Nations Site for the MDG Indicators)

モーリシャスに対する我が国ODA概要

1. 概要

モーリシャスへの我が国の経済協力は、1977年度に研修員受入れを開始し、以降、水産、防災、保健、インフラ分野等を中心に技術協力を進めてきた。1980年には無償資金協力を開始し、翌年に円借款を実施した。また、2005年には技術協力協定を締結した。近年は高中所得国に位置づけられるまでに経済成長を遂げたため、環境分野での円借款の供与や、専門家派遣および研修員受入れを中心とした技術協力を実施している。

2. 意義

モーリシャスは、小島嶼国連合 (AOSIS)、環インド洋地域協力機構 (IOR-ARC) 等で中心的な役割を果たしているほか、広大な排他的経済水域を有していることから外交や水産資源の分野で戦略的に重要な国である。

3. 基本方針

モーリシャスはDACによるカテゴリーで高中所得国に分類されるため、我が国の協力分野は限定されるが、島嶼国として気候変動や自然環境の負の影響を受けやすいため、環境・気候変動対策、防災分野を中心に同国への経済協力を進めていく。

4. 重点分野

- (1) 環境・気候変動対策に係る支援: 島嶼国という性質上、土地や水資源が限られているほか、海面上昇やサイクロン等の自然環境の影響に対して脆弱であるため、モーリシャス政府の気候変動に対する適応・緩和に向けた取組を支援する。
- (2) 防災分野における支援: 多発するサイクロンによる地すべりや洪水等に対する防災に関するモーリシャス政府の取組を支援する。

※注) 1. 年度の区分および金額は原則、円借款および無償資金協力は交換公文ベース、技術協力は予算年度の経費実績ベースによる。

2. 2009年~2012年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2013年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示している。

( )内はJICAが実施している技術協力の実績および累計となっている。

表-2 我が国の年度別・形態別実績詳細 (表-1の詳細)

(単位: 億円)

年 度	円借款	無償資金協力	技術協力
2011 年度	なし	0.05 億円 ・草の根・人間の安全保障無償(1 件) (0.05)	
2012 年度	なし	0.09 億円 ・草の根・人間の安全保障無償(1 件) (0.09)	・地すべり対策プロジェクト [12.04~15.04] ・海岸保全・再生に関する能力向上プロジェクト [12.04~15.06]
2013 年度	なし	0.71 億円 ・気象レーダーシステム整備計画 (追加分) (0.71)	
2013 年度 までの累計	161.46 億円	58.44 億円	57.78 億円(56.48 億円) 研修員受入 476 人 専門家派遣 63 人

注) 1. 表-1 注釈同様

2. 技術協力においては、2011 年度以降に開始され 2013 年 4 月の時点で継続中の技術協力プロジェクト案件のみを掲載している。案件の [ ] 内は、協力期間。

# モーリシャス

表-3 我が国の対モーリシャス援助形態別実績 (OECD/DAC 報告基準)

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	有償資金協力	無償資金協力	技術協力	合計
2009年	-3.34	0.21	1.06	-2.07
2010年	-3.55	0.30	0.40	-2.85
2011年	-3.85	0.27	1.15	-2.44
2012年	-3.82	0.06	4.83	1.07
2013年	-3.12	0.52	1.96	-0.64
累計	15.72	39.31	47.72	102.74

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 国際機関を通じた贈与については、2006年より、拠出時に供与先の国が明確であるものについては各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上することとしている。また、OECD/DAC事務局の指摘に基づき、2011年には無償資金協力を計上する国際機関を通じた贈与の範囲を拡大した。( )内は、国際機関を通じた贈与の実績(内数)。  
 2. 有償資金協力および無償資金協力は、これまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(有償資金協力については、モーリシャス側の返済金額を差し引いた金額)。  
 3. 有償資金協力の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。  
 4. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁および地方自治体による技術協力を含む。

表-4 諸外国の対モーリシャス経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位		2位		3位		4位		5位		うち日本	合計
2008年	フランス	53.70	日本	3.38	ドイツ	1.41	英国	0.60	カナダ	0.31	3.38	57.68
2009年	フランス	51.62	英国	21.11	日本	1.27	ドイツ	1.18	ノルウェー	0.40	1.27	76.41
2010年	フランス	61.26	英国	6.97	日本	0.70	米国	0.47	ドイツ	0.40	0.70	71.04
2011年	フランス	107.14	英国	13.74	日本	1.48	オーストラリア	1.00	ノルウェー	0.71	1.48	124.92
2012年	フランス	89.83	日本	4.99	英国	0.66	オーストラリア	0.64	米国	0.38	4.99	97.52

出典) OECD/DAC

表-5 国際機関の対モーリシャス経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位		2位		3位		4位		5位		その他	合計
2008年	EU Institutions	94.98	GEF	2.00	UNDP	1.52	UNTA	0.58	IAEA	0.55	0.21	99.84
2009年	EU Institutions	93.16	IFAD	1.41	UNDP	1.40	GFATM	0.82	GEF	0.49	0.87	98.15
2010年	EU Institutions	67.88	GEF	2.08	GFATM	2.06	UNDP	1.08	IAEA	0.37	0.40	73.87
2011年	EU Institutions	80.47	GEF	2.65	GFATM IFAD	1.32 1.32	-	UNDP WHO	0.57 0.57	-	1.09	87.99
2012年	EU Institutions	92.41	BADEA	3.43	GEF	2.61	GFATM	1.74	AfDB	0.93	1.46	102.58

出典) OECD/DAC

- 注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表-6 実施済および実施中の開発計画調査型技術協力案件(開発調査案件を含む)(開始年度が2009年度以降のもの)

案 件 名	協力期間
地すべり対策プロジェクト	12. 4~15. 4

出典) JICA

# 主なプロジェクト所在図

# コモロ、マダガスカル、マラウイ、モザンビーク、モーリシャス

